

# 「オール与党」県政に県民の審判

日本共産党と「民主県政の会」の運動と選挙戦での論戦が大きな役割を

## 滋賀県知事選挙の結果について

二〇〇六年七月四日

日本共産党滋賀県常任委員会

（一）七月二日投票の滋賀県知事選挙で、日本共産党が推薦した「民主県政の会」の辻義則候補は七〇、一〇票（得票率一四・八一％）を獲得し、善戦・健闘しました。辻候補を支持していただいた県民のみなさん、昼夜を分かたず奮闘していただいたみなさんに心からお礼申し上げます。

選挙の結果、自民、公明、民主の各党が推した現職の國松善次氏が敗れました。これは、わが党が一貫して批判・追及してきた、「オール与党」による暮らし破壊と新幹線新駅やダム建設などのムダづかいの政治に、県民が審判を下したものととして、大きな意義をもつものです。

「オール与党」県政に審判を下すうえで、私たちのこれまでの運動と選挙戦での論戦が、決定的ともいえる役割を果たしました。わが党と「民主県政の会」は、「オール与党」県政と正面から対決し、福祉医療制度改革や私学助成削減反対など県民の暮らしを守るたたかいや、新幹線新駅などのムダづかい中止を求めて直接請求運動にとりくむなど、県民運動を粘り強くすすめてきました。わが党と「民主県政の会」の奮闘が、選挙戦の争点に押し上げた新幹線新駅建設問題で、「反対六七％（京都新聞出口調査）」などの世論となり、自民党政治による格差社会と生活苦への怒りとも結びついて、「オール与党」県政の転換を願う大きなつねりをつくりだしました。また選挙戦でも、私たちは暮らし応援、ムダづかいストップを掲げるとともに、県政を変える力が日本共産党と広範な県民との共同にあることを明らかにしてたたかいました。わが陣営の論戦には、県民の強い共感が示され、選挙戦全体をリードするものとなりました。國松氏は、障害者への独自支援などを口に出さざるを得なくなる一方、新幹線新駅建設の弁明に大わらわになるなど受け身の論戦に終始しました。また「新幹線新駅の凍結・見直し」を掲げた嘉田由紀子氏も、当初は新幹線新駅の賛否さえ口にしませんでした。が、われわれの論戦と県民の世論に押されて選挙最終盤には「新駅は建設しません」と主張するに至りました。

しかし今回、私たちの主張に強い共感と支持が寄せられたにもかかわらず、「これを辻氏への得票へ結びつけられなかったのは、税金をムダづかいする政治を変えたい」とする有権者が、「新幹線凍結」を掲げた嘉田氏に流れた結果です。

（二）新しく誕生した嘉田県政にたいして、わが党は県民の立場にたつて是々非々の態度で臨みます。新幹線新駅やダム建設などのムダづかいストップや三〇人学級の実現など、こんどの選挙で県民が審判を下し、県民の利益にかなう嘉田氏の公約については、その実現を強く求めることに、わが党としても協力を惜みません。引き続き世論と運動の発展にも力を注ぎます。一方、嘉田氏が掲げた、教育公務員をふくむ県職員の一割（一八五〇人）削減、福祉や教育に大ナタを振るつことに直結する「事業仕分け」など、県民の暮らしを破壊する主張に対しては、その変更を求めて毅然と対応します。わが党は、県民の利益を守る立場からスンを通すとともに、わが党の正論と、県民の運動と世論が県政を動かすこの立場にたつて、今後とも奮闘するものです。

（三）知事選の結果は、県民の支持を集めるにふさわしい水準に、党と「民主県政の会」の実力を高めることの切実さを浮き彫りにしました。わが党は、知事選挙のたたかいに示されたわが党と「民主県政の会」の役割に深い確信をもつとともに、知事選挙の教訓のつえにたつて、自民党政治による悪政を許さず公約を実現するたたかいと、党の実力をつける活動に本格的にとりくんで、来年のいっせい地方選挙と参議院選挙で必ず勝利するために全力を尽くすものです。